



だ美 よ術 り館

contents

- 〈展覧会紹介〉「今、あなたにつたえたい ミリオンセラーロングセラーの絵本たち」[2～3]
「おしゃべりな絵」[秋～初秋から晩秋まで～] [4]
- 〈イベント報告〉「一都市版画の世界― 木村利三郎展」 [5]
「“創造する広告⇄アート⇄新しい光” 戸田正寿の世界」展 [6～7]
- 次回展覧会のお知らせ [8]
- 県立美術館の新しいロゴマークのお知らせ
- 美術館喫茶室二ホ特別メニューのお知らせ
- 休館日のお知らせ

表紙：〈ほくのぼしよ〉(部分) 刀根里衣／NHK出版 「今、あなたにつたえたい ミリオンセラー ロングセラーの絵本たち」展より





『スーホの白い馬』(赤羽末吉・絵 大塚勇三・再話 福音館書店 1967年)より ちひろ美術館蔵



『てぶくろ』(エフゲーニー・ラチョフ・絵 内田莉莎子・訳 福音館書店 1950年)より ちひろ美術館蔵

今、あなたに
つたえたい

2022 会期中無休

9/30^金

11/6^日

開館時間 ▶ 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで) ※9月30日は午前10時～

料金 ▶ 一般 1,000円

親子 1,200円 (保護者1人と中学生までの子ども1人)

高校生 700円 / 中小生 400円

会場・主催 ▶ 福井県立美術館

協賛 ▶ 株式会社ジャクエツ

後援 ▶ 福井新聞社、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ、FM福井、
福井ケーブルテレビ、さかいケーブルテレビ、丹南ケーブルテレビ、月刊URALA

※20名以上の団体は2割引 ※期間中、「ちひろの生まれた家」記念館(越前市)相互入館割引券の提示で当館の観覧料が2割引 ※学生の方は学生証の提示が必要です ※障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額 ※未就学児は無料 ※学校鑑賞会(対象は福井県内学校のみ・福井県文化課要申込)は無料 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場制限を行う場合や中止になる場合があります



『エルマーとカンガルー』(デビッド・マッキー・作/絵 BL出版 2000年)より ちひろ美術館蔵



『だるまちゃんとてんぐちゃん』(かことし・作/絵 福音館書店 1967年)より
© Kako Research Institute Ltd. 1967

ミリオンセラー ロングセラーの 絵本たち

What I want
to convey
to you now
Popular Children's
Picture Books

親から子へ、そして孫へと世代を超えて長く愛され、受け継がれる上質な絵本はページをめくるたびに子どもたちの心を躍らせ、大人をも魅了する力をもっています。そこには友情や愛だけでなく、喜びや孤独、大切な誰かを失う悲しみまで、心で感じる全ての感情が描かれています。大切なものは、幸福とは何か、絵本を通して未来に伝えていきたいメッセージをひもといていきます。

本展は日本国内で販売部数100万部を超えるミリオンセラーの絵本や、長く愛されているロングセラーの絵本のほか、著名な童話作家、洋画家、日本画家による絵本を原画や複製原画、イメージ画でご紹介します。また、世界初の絵本美術館、「ちひろ美術館」が所蔵する世界各国の絵本原画やピエゾグラフィのコレクションから、日本においても100万部を超える人気絵本など、様々な作品をご紹介します。

みどころ① 福井出身の3人の絵本画家・作家たち

本県出身の絵本画家・作家、いわさきちひろ(1918-1974)、かことし(1926-2018)、刀根里衣(1984-)を特集展示。
『からすのパンやさん』に出てくる、すてきな形のパンの模型もどっさり84種類ならびます!



『からすのパンやさん』(かことし・作/絵 偕成社 1973年)より



画像提供:福岡アジア美術館



ぶどうを持つ少女(いわさきちひろ・絵 1973年) ちひろ美術館蔵



『ぼくのばしょな』(刀根里衣・作/絵 NHK出版 2018年)より 作家蔵

みどころ② 日本と世界の名作絵本たち



『ジョットという名の少年～羊がかなえてくれた夢』のイメージ(ビンバ・ランドマン・絵 2002-2003年) ちひろ美術館蔵



『わたしのぼうし』(佐野洋子・作/絵 ポプラ社 1976年)より オフィス・ジロチョー蔵 ©JIROCHO, Inc.



『わたしのワンピース』(西巻茅子・作/絵 こぐま社 1969年/2002年)より ちひろ美術館蔵

※本券チケットで同時開催のコレクション展「おしゃべりな絵」「秋～初秋から晩秋まで～」もご覧いただけます。

関連イベント

親子鑑賞デー

美術館デビューを応援! 会話しながら鑑賞ください。
会期中土曜日 9:00-11:00

読み聞かせのコツ、教えます!

◎たくさん子どもたちを集めたときの絵本の読み聞かせのコツ講座 申込不要・要観覧券

[会場]1階講堂 10/1(土) 10:00-11:00

[講師]福井県立図書館 子ども読書室室長: 田中智美氏

わが子への読み聞かせと美術館たんけん

(新米/ババママ応援講座)要申込・要観覧券 10/15(土) 9:30-11:00

[会場]1階講堂、展示室

[対象]パパ、ママ、0～8才までのお子さん/20組(おじいちゃん、おばあちゃんも歓迎!) ※この講座は保護者2人とお子さんと参加してください。パパは絵本の読み聞かせの練習、ママと子どもたちは学芸員と一緒に美術館を探検します。

[講師]福井県立図書館 子ども読書室室長: 田中智美氏
福井県立美術館学芸員: 佐々木美帆

[運営](公財)ふくい女性財団

[申込]ふくい女性財団特設ページ



ねえ、絵本よんで!

◎絵本の読み聞かせ会 申込不要・参加無料

10/8(土)、10/30(日) 各日 14:00-14:40 南場恭子氏

[演奏]パロックノーツ

10/29(土) 11:00-11:30

日本朗読検定協会 読み聞かせ講師 梅田悦世氏

10/29(土) 14:00-14:40 福井県立美術館ボランティアの会

[対象]幼児～低学年 [会場]1階講堂、展示室、ロビー ※都度案内

◎絵本コーナー 貸出不可・入場無料

子ども向け、大人向け、それぞれの夢線に触れるミリオンセラー・ロングセラーの絵本を福井市立図書館、福井県立図書館、越前市かことしふるさと絵本館[硯]所蔵の絵本から厳選し、期間中、特設コーナーを設置します。

今、だれかとつながりたい!

◎だれかに贈りたくなる仕掛けカードづくり

要申込・参加無料・要観覧券

10/29(土) 9:00-11:00 [会場]第4研修室

[対象/定員]小学中学年～中学生/15名

[講師]アーティスト 萬末来子氏

[申込]詳細は美術館ホームページ

◎すてきな遊具であそぼう 申込不要・入場無料

いずれもグッドデザイン賞受賞の遊具、深澤直人デザイン[BANRI]や、五十嵐久枝デザイン[ソフトドームS]が、子どもたちのワクワクを引き出します。

◎絵本マラソン ～各自のおすすめの絵本をリレーで語る60分～

要申込・参加無料(お飲み物をご注文ください)

10/16(日) 18:00-19:00 [会場]美術館喫茶室二ホ [定員]20名

[持ち物]おすすめしたい絵本1冊

[申込]福井県文化課(☎0776-20-0580, E-mail: bunka@pref.fukui.lg.jp)

または美術館喫茶室二ホ(☎0776-43-0310)まで

◎ナイトミュージアム 大人が楽しむ絵本の世界

要申込・参加費 2000円(講演会、観覧券付き)

10月9日(日) 17:30-19:30 ※受付開始は17:15～ [定員]30名

[講師]児童文学研究者・越前市かことしふるさと絵本館

[硯]元館長: 谷出千代子氏

[申込]ミュージアムショップ(店頭またはinfo@greenlab.jpまで)

福井絵本めぐり

当館&「ちひろの生まれた家」記念館 &越前市かことしふるさと絵本館[硯]3館連携コラボ

※「ちひろの生まれた家」記念館、越前市かことしふるさと絵本館[硯]は火曜定休

◎福井絵本めぐり 3館をつなぐバスツアー

越前市は、かことし、いわさきちひろの優れた2人の絵本画家・作家を輩出し、それぞれを紹介する館があります。当館とその2館、武生中央公園の「だるまちゃん広場」や「たけふ菊人形」をめぐるバスツアーを開催します。要申込・参加費一般1000円・高校生以下800円(観覧券、バス代込) 定員25名

10/17(月) 10:00-14:00

[主催]京福バス株式会社 [申込]詳細は美術館ホームページ

◎福井絵本めぐりスタンプラリー

展覧会期間中(当館9/30-11/6、ちひろ9/17-11/28)、3館をめぐるスタンプを集めたお客様には記念品をプレゼント。さらに抽選で豪華プレゼントも当たります。

◎相互入館割引

※割引有効期限 当館11/6、「ちひろの生まれた家」記念館11/28まで 会期中購入した福井県立美術館の観覧券の半券、あるいは「ちひろの生まれた家」記念館の相互入館割引券の提示で、他館の観覧料を団体料金に割引。

※他の割引・サービスとの併用不可。越前市かことしふるさと絵本館[硯]は入場無料。

◎写真撮影スポットの設置

各館でSNSに投稿・拡散したくなるスポットを設置、「#福井絵本めぐり」で拡散してね。



三輪晁勢《鳥》(部分)1966(昭和41)年

本展覧会は、耳をすますと思わず
何かが聞こえてきそうな絵にスポットを
当てます。

人々の姿や動物たち、また自然の
景色のほかに、色や形で構成され
た抽象画など、絵画のなかで繰り
広げられるそれぞれの場面からは
人々の会話や街のざわめき、鳥の
鳴き声や波の音など様々な音が聞こ
えてきそうです。

こうした絵から漏れ出てくる「音」
を想像し、臨場感を味わっていただ
ければ幸いです。どうぞ耳を傾けて
作品をご覧ください。

おしゃべりな絵

2022.9.30(金)－11.6(日)

同時開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場制限や中止をする場合があります。
※事前に美術館ホームページ等での確認をお願いします。
※入館時にマスクの着用、手指消毒、検温にご協力いただきますようお願いします。

〔開館時間〕 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

※9月30日(金)は午前10時開館

〔料 金〕 一般・大学生100円(20名以上の団体は2割引き)

※高校生以下、70歳以上、障がい者手帳を
お持ちの方とその介助者は無料。

※10月16日(日)は「家庭の日」により無料。

〔休 館 日〕 会期中無休

〔主 催〕 福井県立美術館

秋～初秋から晩秋まで～

季節は夏から秋へと移り、日常に秋の気配を感じる景色が広がります。高く澄んだ空に清々しく通り抜ける秋風、秋色に染まる木々に実る果実や、たわわに実る金色の稲穂。どこからともなく聞こえてくる虫の声…古くから日本人は秋をテーマに情緒豊かな感性を自らの作品で表現してきました。

本展覧会では、福井県立美術館が所蔵する作品を展示するほか、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館所蔵の重要文化財を含む作品も合わせて出品します。絵や工芸品の中に息づく「秋」をお楽しみください。



岡不崩《菊花園》(部分)制作年不詳

《イベント報告》

木村利三郎展

―都市版画の世界―

2022.2.26(土)－3.21(月・祝) 主催：福井県立美術館

福井県立美術館では2月26日(土)から3月21日(月・祝)まで、「―都市版画の世界― 木村利三郎展」を開催しました。

神奈川出身の木村利三郎(1924～2014)は、ニューヨークを拠点に国際的に活躍した版画家です。“街”をモチーフに様々な版画技法を用いて作られる画面は、独創性が際立ちます。特に中期以降のスクリーンプリント技法を高度に応用した作品群は、高い質感を持っています。「福井小コレクターの会」の中心メンバーが、木村の活動を応援すべく、県内で度々彼の個展を開催。このため多くの作品が、県内の小コレクターの手に渡る等、福井との関わりが深いことでも知られています。

本展は、新聞寄稿、記事掲載等、各メディアでも大きく扱われ、沢山の反響をいただきました。御来場いただいた皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます。



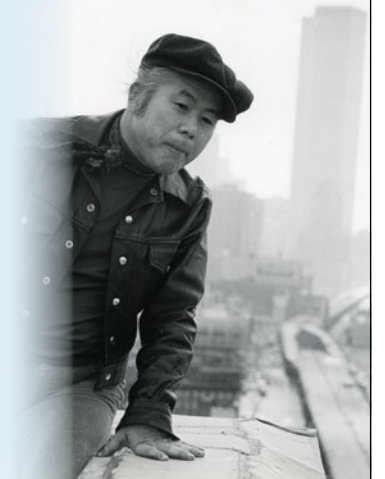
木村利三郎―都市の未来を版画に

1924年横須賀市に生まれた木村利三郎は、神奈川師範学校を経て法政大学で美学を学んだ。美術評論家を目指す傍ら、美術への理解を深めるために、創作活動を並行して行っていた。1957年頃からは、創造美育運動・小コレクター運動(*1)の主導者久保貞次郎と知り合い、同運動に参加。この運動に参画し支援者たちに版画を売り始めていた瑛九、鬚嘔、池田満寿男等気鋭の作家たちと知り合ったことをきっかけに、版画制作にも興味を持つようになる。

1964年、恩師で哲学者の谷川徹三に「本物を見なければ駄目だ」と言われ、さらに久保貞次郎に「5万円(*2)あげるから外国へ行ってこい」と鼓舞されたこと等を契機に渡米。マンハッタンに居を構え、600ドルでスクリーンプリントの道具を購入し、版画家として本格的に制作を開始する。

渡米当初は実験的な制作を繰り返した木村であるが、やがてニューヨークにインスピレーションを得て、“都市”を主題にするようになる。ニューヨークが木村に与えた影響は大きく、高層ビル群に複雑に入り組む交通網や通信回路等を抽象化・記号化して色鮮やかにスクリーンプリントによって表現。この街からの刺激によって「City」シリーズを生み出していく。そしてこの傑出したシリーズによって木村は一躍脚光を浴びるようになる。

「City」シリーズで木村は、終生のテーマとなった「都市の崩壊と再生」を表現し続けた。高層ビルが倒壊する姿を描いた《無題(仮題)》(1960年代)はニューヨークの9.11と酷似し、《City 424 “SPACE City”》(1994年頃)は宇宙空間に新たに生まれるであろう都市の姿を想起させる。木村は2014年に亡くなるまで、一貫して、都市の暗部を捉えながらも理想や希望を持って都市の未来を創造し続けた。木村が描く「City」には、“力強く立ち上がる都市のイメージ”が表現されている。

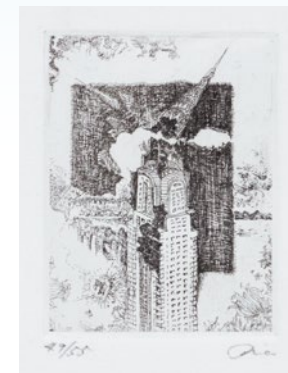


(*1) 久保貞次郎が主導し、新しい美術教育に情熱を燃やす教師たちを対象に行われた運動。「創造美育セミナー」「児童画公開審査会」「よい絵を安く売る会」等が催された。

(*2) 当時のサラリーマン初任給 約1万5千円

西村直樹(福井県立美術館総括学芸員)

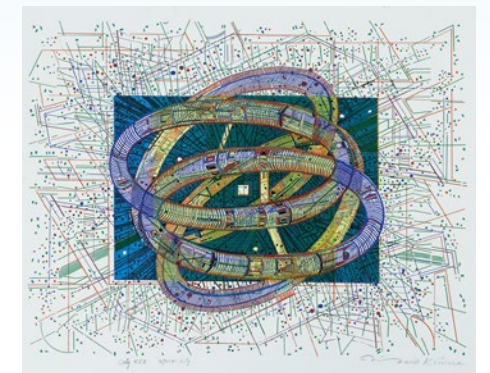
※本文は、寄稿文(福井新聞、3月13日掲載)を抜粋・改稿した。



木村利三郎《無題(仮題)》1960年代
5.5×4.2cm 紙、エッチング



木村利三郎《City 321》1976(昭和51)年頃
64.5×50.1cm 紙、スクリーンプリント



木村利三郎《City 424 “SPACE City”》1994(平成6)年頃
48.7×63.7cm 紙、スクリーンプリント



2022年
7/15[金]～8/31[水] 福井県立美術館

主催／戸田正寿の世界実行委員会
(福井県立美術館、福井テレビ)
特別協賛／坂井市



福井県立美術館では、福井テレビと実行委員会を組織し、7月15日(金)から8月31日(水)までの会期で、特別企画展「創造する広告⇄アート⇄新しい光 戸田正寿の世界」展を開催しました。

日本を代表するアートディレクター、戸田正寿(1948—、福井県出身)。戸田は《サントリー・缶ビール(ペンギンキャラクター編)》《サントリー・ローヤル(ランボオ編)》《伊勢丹》《アエラ》等アーティスティックでクリエイティブ数々の広告によって、それまでの常識を覆し、新しい広告像を提示。国際的に高い評価を得るとともに、多くの人々を魅了してきました。

近年は、光るキャンパス「Lightface」(2016年)の意匠監修や、刻々と変化する雄島(福井県坂井市)の景観を鑑賞する「Brilliant Heart Museum」(2018年)を完成させるなど、自身の美意識をかたちにすべく斬新な試みを行っています。

本展では、一時代を築いた戸田の広告作品群を一堂に披露するとともに、「Lightface」をキャンパスに見立てた光る作品や「Brilliant Heart Museum」から見える雄島の四季の移り変わりをダイジェスト映像で紹介。計438点の作品、映像、インスタレーション等を1つの空間芸術として構成し、戸田正寿の世界観に迫りました。

このような戸田正寿の世界を体感するため、県内外から連日、大勢の美術ファンが来館し、最終的な入館者数は、26,602人に達しました。

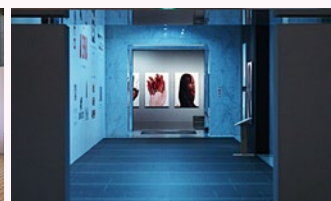
会期中は、土曜日を中心に、学芸員による「見どころ解説会」が実施され、解説を熱心に聞く方が多いため、質問コーナーを設けました。また、戸田の創作活動の軌跡を辿る「対談『戸田正寿の軌跡』」、戸田のクリエイティブの深層に迫る「対談『戸田正寿のクリエイティブ』」、笙演奏家 宮田まゆみさんによる「笙演奏『雄島の四季と戸田正寿に捧ぐ』」、「学芸員トークサロン『戸田正寿のアートディレクション』」、「戸田正寿制作CM作品ダイジェスト版」上映会、「戸田正寿サイン入りポスタープレゼント」等、多くの関連イベントが開催されました。

展覧会に併せて刊行された図録『創造する広告⇄アート⇄新しい光 戸田正寿の世界』には、代表作品の図版やロングインタビューを基にしたテキスト「戸田正寿 クリエイティブの軌跡」(西村直樹)が掲載され、好評を得ました。

広報では、駅、大型書店、店舗等でのチラシの配架等を実施しました。また、テレビでは、本展のニュース、スポットCM等が数多く放映されるとともに、新聞では、寄稿、記事、広告等、雑誌では、記事等が掲載されました。

こうした対応の結果、入館者へのアンケートでは、多数の方が「大いに満足・満足」を選択され、複数回来館された方もありました。

当館としては、この展覧会に御来場、御協力いただいた皆様に対して、この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。



撮影コーナー

ギャラリートーク(7月15日(金))

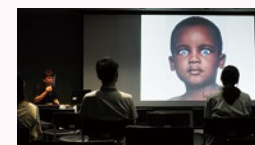


photo: 梅津忠夫

《関連イベント》

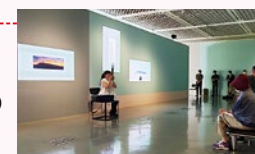
●見どころ解説会 ※各回約45～55分間実施

[日 時] 7月15日(金)16:00～、16日(土)10:30～、21日(木)10:10～、
23日(土)・30日(土)・8月6日(土)・13日(土)・20日(土)・27日(土) 各日10:30～
[場 所] 福井県立美術館講堂
[講 師] 西村直樹(福井県立美術館総括学芸員)
[参加人数] 208人



●笙演奏 「雄島の四季と戸田正寿に捧ぐ」

[日 時] 7月16日(土)14:00～14:35頃
[場 所] 福井県立美術館第1展示室
[笙演奏家] 宮田まゆみ氏(国立音楽大学招聘教授)
[参加人数] 100人



●「戸田正寿制作CM作品ダイジェスト版」上映会

[日 時] 7月15日(金)～8月31日(水)9:00～17:00
[場 所] 福井県立美術館講堂
[参加人数] 11,246人



●戸田正寿サイン入りポスタープレゼント

[日 時] 8月1日(月)～8月21日(日)9:00～12:00
※8月9日(火)、10日(水)、17日(水)、18日(木)、19日(金)を除く
[場 所] 福井県立美術館エントランスロビー [プレゼント人数] 232人

●対談「戸田正寿の軌跡」

[日 時] 7月24日(日)14:00～15:40頃
[場 所] 福井県立美術館講堂
[登壇者] 戸田正寿氏×西村直樹
(福井県立美術館総括学芸員)
[参加人数] 62人



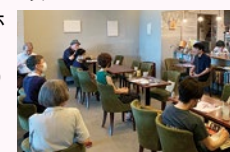
●対談「戸田正寿のクリエイティブ」

[日 時] 8月7日(日)14:00～15:40頃
[場 所] 福井県立美術館講堂
[登壇者] 戸田正寿氏×西村直樹
(福井県立美術館総括学芸員)
[参加人数] 68人



●学芸員トークサロン「戸田正寿のアートディレクション」

[日 時] 8月21日(日)18:00～19:15頃
[場 所] 福井県立美術館喫茶室ニホ
[講 師] 西村直樹
(福井県立美術館総括学芸員)
[参加人数] 7人



「土岡秀太郎 福井のアートを拓いた男」

【会期】 令和4年12月9日(金)～令和5年1月15日(日)

【休館日】 月曜日、年末年始

(12月29日(水)～1月2日(日))

※ただし、1月9日(月・祝)は開館し、
11日(火)が休館。

福井の現代アートの礎を築いた美術指導者、土岡秀太郎が大正11年に「北荘画会」を創立してから、ちょうど100年。これに合わせ、関係する貴重な作品、資料を展示し、土岡の功績を広く紹介します。



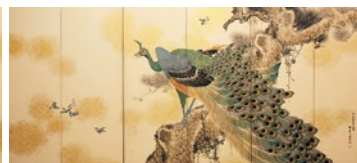
木下秀一郎《土岡氏の夜像》1922年

「新春展 動物コレクション」

【会期】 令和5年1月3日(火)～1月15日(日)

昔から動物は絵画や工芸のテーマとなり、さまざまに表現されてきました。

それらは身近なものだけでなく、想像上の動物も描かれています。本展覧会は動物をテーマとして描かれた作品を紹介します。



上：下村観山《寿星》(右隻・部分)1915(大正4)年頃／下：松逕《孔雀図屏風》1916(大正5)年

福井県立美術館
Fukui Fine Arts Museum

戸田正寿氏より、県立美術館の新しいロゴマークをご寄贈いただきました。
新しいロゴマークは、福井の「F」をモチーフに、福井の大地にのびのびと創造性が芽生えるようにとの願いを込めてデザインされました。

「ミリオンセラー
ロングセラーの絵本たち」
展覧会特別メニュー

「くりのすけ 栗プリンパフェ」

絵本から飛び出したような、可愛い栗の妖精「くりのすけ」のビスケットが目を引くパフェ。てんさい糖を使って優しい甘さに焼き上げた「てんさい栗プリン」に、自家製の「ミルク珈琲アイス」や「渋皮栗アイス」を合わせ、渋皮煮やクルミ、カカオニブなどで秋らしく仕上げました。

美術館喫茶室 二ホ

【営業時間】 9:00～19:00

【定休日】 月・火曜日(祝日営業)

* 催しによっては
火曜日営業

【電話番号】 0776-43-0310

* フリーWi-Fi



Facebook



Instagram

お知らせ

©2022年10月～2023年1月の休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。

11月7日(月)～10日(水)、14日(月)～22日(火)、28日(月)、29日(火)、12月5日(月)～8日(水)、12日(月)、19日(月)、26日(月)、29日(水)～1月2日(月)、10日(火)、16日(月)～18日(水)、23日(月)、30日(月)



美術館のHPはこちら